

# 戦争ポスターを使った授業

千葉市立蘇我小学校 三橋 昌平

- 1 実施学年及び教科・領域  
小学校第6学年 社会科

- 2 学習のねらいと博物館の活用との関連について

(1) 単元名 長く続いた戦争と人々の暮らし

(2) ねらい

① 学習指導要領との関連

本単元は、小学校学習指導要領の第6学年の内容(2)「我が国の歴史上の主な事象について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する」における「日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦、日本国憲法の制定、オリンピック・パラリンピックの開催などを手掛かりに、戦後我が国には民主的な国家として出発し、国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことを理解すること」を受けて設定した。また、「遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、まとめること」を受け、本単元では、歴博の戦争ポスターを活用しながら、我が国と中国との戦いが前面化したことや、我が国が戦時体制に移行したこと、我が国がアジア・太平洋地域において連合国と戦って敗れたこと、国内各地への空襲、沖縄戦、広島・長崎への原子爆弾の投下など、国民が大きな被害を受けたことが分かるようにしていく。また、これらの戦争において、我が国が多くの国々、とりわけアジア諸国の人々に対して多大な損害を与えたことについても触れていく。

② 単元の目標

- ・日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦などを手掛かりに、我が国と中国との戦いが全面化したことや、連合国との戦いによる敗戦、広島・長崎への原爆投下など大きな被害を受けたことなどを理解する。
- ・世の中の様子、代表的な文化遺産に着目して、地図や年表などの資料で調べたり聞き取り調査をしたりして、我が国の政治や国民生活が大きく変わったことを考え、表現する。
- ・日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦などについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとする。

(3) 博物館との関連

① 活用方法 非来館型活用

② 活用資料 貸出教材「戦争ポスター」及び所蔵データ

H-966-2 大政翼賛会ポスター「厨芥を生かせ！」

H-966-4-4 大東亜戦争期ポスター「陸軍少年生徒募集」

H-966-4-5 大東亜戦争期ポスター「少年産業戦士募集」

H-966-4-23 大東亜戦争期ポスター「比島決戦重大化す」

H-966-4-30 大東亜戦争期ポスター「節米一割」

H-966-4-34 「買へ戦時債券を！祝へシンガポール陥落を！」大蔵省・東京財務局・東京府  
東京市

- H-966-27 今こそ援護も決戦調（千人針の婦人会）  
 H-966-43 国民総決起  
 H-966-66 この仇は俺達が討つ！  
 H-966-71 ポスター「必勝の道」  
 H-966-75 ポスター「大東亜戦争だ必ず勝つのだ！！」

(4) 指導観

千葉市立蘇我小学校は今年度創立 150 年を迎える学校である。蘇我の地域には歴史的価値のあるものも多く残されており、小学校の歴史学習でおおいに生かしていく必要があると感じる。千葉市は 1945 年 6 月 10 日と 7 月 7 日に大きな空襲を受け、被害が出た。蘇我地域では、6 月 10 日の空襲で多くの人々が亡くなっている。この事実は、戦後の地図や学校の近くにある福正寺に残る碑などからよくわかり、児童にとっては身近なものであるはずだが、ほとんどの児童は知らないというのが実情である。戦争の学習をするにあたって、地域で起きたことと国内、国外で起きていたことを結びつけていくことで、より実感もてる学習としていきたい。そのための手立ての一つとして、歴博の貸出資料「戦争ポスター」及び所蔵データを活用していく。戦争ポスターを活用することで、日本が戦時体制に移行していったことを実感させたり、アジア地域へ多大な損害を与えたことを理解させたりしていきたいと考えた。

前回の博学連携の実践では、生活に関するポスターを単元の導入で取り上げた。今回の実践では、単元を通してポスターを取り上げる。前回取り扱っていないポスターも取り上げ、子どもたちと戦争ポスターの意味について考えていくことで、上述のねらいを達成できるようにしていきたい。また、前回の実践でも地域との関連について取り組んだので、蘇我地域に関連するようなポスターを使った方がよいという指摘を受けた。実践のねらいと地域とが合致するようなポスターはなかなかないが、地域の人々を取り上げるといった手立てを行い、この点も考慮して単元を組んでいくこととした。なお、授業者は 4 年生の担任であったので、この単元の学習は 6 年生の 1 クラスを借りて実践したものである。

3 指導計画（9 時間扱い）※学習活動及び内容の網かけは歴博所蔵の戦争ポスターを活用したもの

過程	時間	○学習活動及び内容	□指導上の留意点■評価の観点
導 入	1	「蘇我町 1 丁目家並復元図」から、蘇我の町では多くの人々が戦争で亡くなっていることを知り、知りたいことについて話し合い、学習問題を立てる。	□蘇我町 1 丁目家並復元図から、学習問題が立てられるよう学習を進める。 ■感想で、戦争について知りたいことや疑問をまとめられたか。 〈ワークシート、主体的に学習に取り組む態度〉
		なぜ、蘇我の町でもこれほどの死者が出るような戦争が起こってしまったのだろう。また、この戦争はどのようなものだったのだろう。	
	2	「国民総決起」のポスターから疑問点を話し合い、学習計画を立てる。	□戦争ポスターを読み取って、戦争中の生活や様子について疑問点を出せるよう一緒に考えながら話し合いを進め、学習計画を立てられるようにする。

			<p>■資料から戦時中の生活や様子について疑問点を出して話したり、書いたりできたか。</p> <p>〈行動の観察・ワークシート、思考・判断・表現〉</p>
展	3	「往け若人！ 北満の沃野へ！！」のポスターから満州事変、日中戦争を起こした理由や戦争の広がりについて調べる。	<p>□戦争ポスターや資料から、満州事変を起こした理由や戦争の広がりについて調べる。</p> <p>■資料から必要な情報を集め、我が国が、中国各地において戦争を拡大していったことを理解できたか。</p> <p>〈発言・ノート、知識・技能〉</p>
	4	「買へ戦時債券を！ 祝へシンガポール陥落を！」などのポスターから日本の戦争の広がりを調べる。世界の様子について調べる。	<p>□戦争ポスターや資料から、日本は東南アジアや広く太平洋の各地で戦ったことや、世界の様子について調べる。</p> <p>■日本は戦争を拡大し、戦場となった地域などの人々に大きな被害を与えたことを理解できたか。</p> <p>〈発言・ノート、知識・技能〉</p>
	5	千葉鉄道連隊に所属した人物の資料から、戦争に従事した人の生活について考え、話し合う。	<p>□資料から、戦争に従事した人の生活について調べる。</p> <p>■戦時中の生活について、戦争に従事した人の視点からどのようなものだったのか考えることができたか。</p> <p>〈発言・ノート、思考・判断・表現〉</p>
開	6	大東亜戦争期ポスター「節米一割」大政翼賛会ポスター「厨芥を生かせ！」等のポスターから戦争中の生活について話し合う。	<p>□資料から、戦争中の人々の生活について調べる。</p> <p>■戦時中の生活は、日本に残った人々の視点からどのようなものだったのか考えることができたか。</p> <p>〈発言・ノート、思考・判断・表現〉</p>
	7	「今こそ援護も決戦調」のポスターを見たり、千葉市空襲の体験をした女性の資料を読んだりして、戦争中の女性について考える。	<p>□資料から、戦争中の人々の生活について調べる。</p> <p>■戦時中の生活について、女性の視点からどのようなものだったのか考えることができたか。</p> <p>〈発言・ノート、思考・判断・表現〉</p>
まとめ	8	「国民総決起」のポスターをもう一度見て、考えたことを文章に表す。	<p>□それぞれの場所や立場における戦争の影響や当時の人々の生活について調べたことを整理する。</p> <p>■これまで調べたことを比較し、関連付けたり総合したりして、戦争がもたらす被害の大きさについて考え、</p>

		自分の考えを表現できたか。 〈ワークシート、思考・判断・表現〉
9	かるたづくりをする。	<input type="checkbox"/> 戦争が人々の与えた影響について、調べたことをもとに友達と話し合っ て自分の作品を作る。 <input checked="" type="checkbox"/> 日本と中国の戦争が全面化したこ とや連合軍との戦いによる敗戦、 原爆投下などの大きな被害を受け たことなどを理解できたか。 〈作品、知識・技能〉

#### 4 実践の概要

##### (1) 第1時 蘇我町1丁目家並復元図から学習問題を立てる

指導観でも述べたように、子どもの実態として地域の戦争の被害についてほとんど知らないということが挙げられる。そこで、千葉市空襲を記録する会編（1980）『千葉市空襲の記録』にある「蘇我町1丁目家並復元図」を使って蘇我の地域の戦争被害について知ることにした。この資料では、各家庭での死没者が記されており、死没者のいる家庭を色塗りしていくことで被害が大きかったことを実感させることができた。色塗りの際には特に説明せず活動していったので、子どもたちの中には疑問がふくらんできていた。

次に、学校の近くにある福正寺の写真を見せながら、空襲の事実について説明していった。また、千葉市大空襲とアジア・太平洋戦争の記録100人の証言編集委員会（2009）『千葉市大空襲とアジア・太平洋戦争の記録100人の証言—この記録をあなたに繋ぎたい—』から、蘇我の地域で空襲被害を受けた人の証言を紹介した。これらの資料から蘇我の地域で戦争の被害があったことを実感でき、これからの学習につなげていくことができると感じた。その後学習問題を作り、第1時の振り返りを行った。



福正寺「蘇我町戦災死者之墓」

##### ○第1時の子どもたちの振り返り

- ・蘇我町1丁目に爆弾が落ちたということを知って、しょうげきでした。今までは日本が戦争で勝っていたのに、自分の今いる蘇我だと思いとショックでした。(ST)
- ・今日の学習で、蘇我1丁目でこんな被害があったことを初めて知りました。場所がずれたからこんなにも人が亡くなったのだと思い、なんでこんな戦争をするのかが気になりました。(YG)
- ・このような大きな被害の後にどのように町をつくっていったのかなと思いました。今の知っている蘇我の町に本当に起きたことだということにもおどろきました。(KI)
- ・蘇我町1丁目家並復元図から赤で色をぬったところは爆弾が落ちて亡くなった人だとわかり、焼けた家もその後どうなったのか調べてみたいです。(HS)

振り返りからは、蘇我の地域で戦争の被害があったことに驚いている様子が読み取れる。STやYGの振り返りからは、これまでどこかで行われていた戦争がぐっと自分に近いものとして捉えていることがわかる。また、KIやHSの振り返りには、これから知りたいことについて書かれているように、自分に近いこととしてこれからの学習に取り組んでいきたいという様子がその他の振り返りからも多く見られた。

(2) 「国民総決起」のポスターから疑問点を話し合い、学習計画を立てる。

第1時の振り返りを発表したり、ポスターを使って学習を進めていくということを伝えたりし、「国民総決起」のポスターを使って、「変だなあ探し」を行い、学習計画を立てた。疑問をもって学習に取り組むことで、よりよい授業になりそうだと感じた。担任ではないので、毎時間の振り返りをプリントにして、事前に配付して読んでおいてもらうことにした。

振り返りには多くの疑問や意見が見られた。ここで私自身がこの単元の学習で重きを置きたいと感じたのが、子どもたちの前提として「女性は戦争には関係しない」という意識があるということである。だから振り返りにも女性が関わったのであればどのように関わったのか、ということが出てくるのだと感じた。特に第2時以降、女子児童の振り返りには多く出てきていた。これは、仮に自分がその時代に存在したのであればということを想像して、資料から事実と真剣に向き合っているということだと考える。自分が戦争に対峙するということを考えたら当然の反応とも言えるが、戦争ポスターを使っていくことでこの意識が顕著になったと強く感じる。



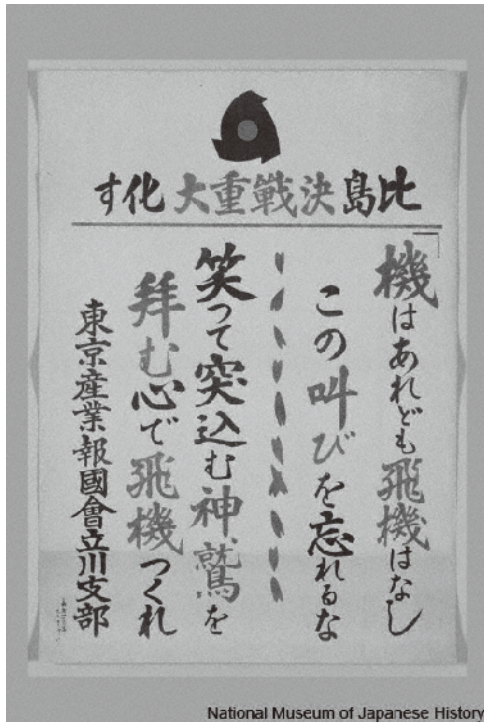
戦争ポスター「国民総決起」

○第2時の子どもたちの振り返り

- ・いろいろな人の意見を聞き、人々がどんな気持ちで生き抜いたかという疑問がわきました。ポスターのことももっと知りたいです。(KR)
- ・ポスターは誰がつくったのか、何を呼びかけるポスターなのか、他にはどんなポスターがあったのかなど、いろいろ知りたいです。(TG)
- ・このよくわからないポスターが町にはられていると思うと、町の人はこのポスターがわかったのかなと疑問に思いました。(HY)
- ・戦争に向かっているポスターは当時、たくさんはられていたのだと思う。勝つことをもくろんでいる描写がたくさんあった。みんなで、そのときにある武器のようなもので戦おうという意味だと思う。(OT)
- ・ぼくはポスターを見て後ろにある富士山について疑問に思いました。みんなが団結して戦っているのがわかるけれど、どの年齢、性別の人も戦ったのかなと思いました。(HG)
- ・なぜ犬がいるのか、女の人がいるのか、みんな服装がちがうのか、強そうな武器を持っていないのかが気になりました。(ST)
- ・なぜ戦争のポスターに犬がいるのかが気になりました。富士山が戦争に関係しているの？と不思議に思いました。年の差や男、女関係なく戦争をしているんだなと思いました。背が小さい人が持っている旗にはどんな意味があるのだろうと思いました。(HM)

(3) 「買へ戦時債券を！祝へシンガポール陥落を！」などのポスターから日本の戦争の広がり調べ。

第3時では、三四呂による「往け若人！ 北満の沃野へ！！」（長野県1940年頃）のポスターから満州事変、日中戦争を起こした理由や戦争の広がりについて考えた。子どもたちは教科書の記述なども参考にしながら、考える様子が見られた。第4時では、戦争が拡大していくことを捉えられるよう、3種類の戦争ポスターを扱った。ポスターから東南アジアや太平洋の各地で戦ったことや、日本の置かれている状況について捉えられるようにした。

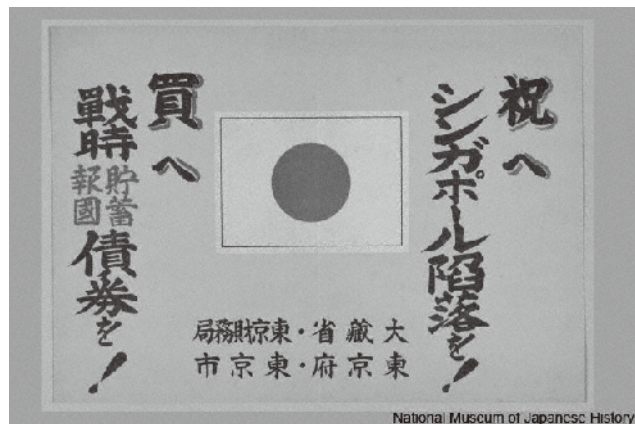


戦争ポスター「比島決戦重大化す」



戦争ポスター「この仇は俺達が討つ！」

授業中はマーシャル群島、アッツ島、比島などがどこにあるのだろうと探したり、債券の意味について説明を求めたりするなどし、ポスターの意味を理解したいという様子が多く見られた。細かいところまで見ていくうちに、当時の政府のとなっていたことに対して疑問視したり、憤りを覚えたりしていた。これは今までの日清戦争や日露戦争の学習の際には見られなかった様子だと担任から聞いた。これは資料のもつ魅力や、子どもの疑問をもとに進めていったことが要因だと考える。第4時までの段階で、戦争ポスターを中心に学習を進めていくことで、疑問をもち、当時の人々の様子を想像したり、資料から考えたことを話し合ったりできると感じた。どこか他人事になりがちな戦争学習を、子どもたちが当時の人々に寄り添って学習する様子からも、戦争ポスターが資料として有効であると考えられる。同時に、これらのポスターがプロパガンダの役割を果たしていることにもおぼろげながら気付いている子どもたちがおり、この視点をどう扱っていくかがこれからの課題だと感じている。



戦争ポスター「買へ戦時債券を！祝へシンガポール陥落を！」

○第4時の子どもたちの振り返り

- ・戦争をするのは日本の南の方のシンガポールあたりだと知り、なぜそこで戦っているのか気になりました。大和魂とは、戦争に勝つ！という心のことなのかなと思いました。(MD)
- ・飛行機が足りないから、兵士に物を渡せないみたいな意味だと思いました。お金が足りないという、新たな問題も増えていることもポスターから読み取れました。(OA)
- ・「この仇は～」のポスターの下の文章はうそをついているのではないかと思いました。明らかに大勢の人々が亡くなってしまったことが新聞でわかるし、もっと人が必要だから、日本で作った武器がすごいんだよとあって、自信をもたせて武器をもっとつくらせるのかなと思いました。(UK)
- ・玉砕や戦死などがあるため、戦争では不利になっていたと思いました。飛行機をつくれなどもあるから、武器なども無くなってきていると思います。あきらめた方がいいと思います。(UD)
- ・女性は戦争に行かされたのか、何歳の人が行かされたのかなども知りたいです。今後、戦争に行かず、日本に残っている人々はどんな生活をしていたのかも知りたいです。(TG)
- ・「飛行機をつくれ」と国などが要求しているポスターを見て、国がそれくらい戦争をすることをすすめていたことがわかり、今とは全然ちがっておどろきました。また、ポスターの写真や絵などの兵士達は、男性ばかりですが、女性や子どもたちはどのような暮らしをしていたのかももっと具体的に知りたいです。(HN)
- ・戦争を起こしてたくさんの人々が亡くなっているのに、それでもなぜこのようなポスターをつくって、戦争を起こそうとするのだろう。(MB)

(4) 千葉鉄道連隊に所属した人物の資料から戦争中の生活について考え、話し合う

戦争ポスターによって戦争の様相は捉えることができていたが、人々が具体的にどのような生活をしていたのかということは見えてきていない。そこで第5時では、実際に戦争に従事していた人についての資料から考えた。千葉県歴史教育者協議会編集(1996)『学校が兵舎になったとき 千葉から見た戦争一九三一～四五』の中の、「死の鉄道建設に動員された兵士たち—千葉鉄道連隊と泰緬鉄道」の文章や、千葉県歴史教育者協議会編(2012)『おはなし千葉の歴史』の資料を全体で読み進めた。実は鉄道連隊の文章に出てくる兵士は授業者の祖父で、そのことは子どもたちには最後に触れた。自分の場合は記録として残っているが、子どもたちの祖先も同様に戦争の中、生きていたことを伝えたかったからだ。

○第5時の子どもたちの振り返り

- ・容赦なくぶん殴られたと書いてあったので、戦争のためだけに、なんでこの人たちがこんなにひどいことをやらされているか不思議に思い、びっくりしました。「中国の首都を爆撃」のところで、海軍は「この南京の爆撃は大成功であった」と国民に宣伝したと書いてあったので、30名も犠牲者がでたのに、国のために戦争をして、命をかけているのにそのことを報告しないのはひどいなと思いました。(YG)
- ・戦争はこの仕事をやる、やりたくないなどの選択はできたのか気になりました。もしできたなら、なぜその行ってしまった人は「やる」「行く」という選択をしたのか。家族に「行け」と言われたのか、行きたくて行ったのかなども知りたいです。(OM)
- ・急に召集されて、いつも怒号と竹の杖でなぐられたりするなんて、同じ国の人とは思えない行動だと思いました。日本では、女の人には多分服とか武器とかをつくっていると思います。(NJ)

- ・今日、資料を読んで、日本軍が中国やタイとの条約を無視した爆撃を行っていたことに日本もひどいなと思いました。また、無差別爆撃の歴史をたどっていくと、始まりは千葉県にあった木更津航空隊だったことに身近な場所でこんなことがあったのだとおどろきました。(HN)
- ・タイやビルマなどでは、戦っている中で鉄道建設という大変なことをしなきゃだめだったのだなと思いました。次に東京大空襲や原子爆弾の投下などの原因が木更津の部隊による攻げきだったのにおどろきました。そして、この中での生活はどのようなものだったのか気になりました。(HG)
- ・鉄道の話では、無理矢理ジャングルで働かせたり、爆撃の話でも犠牲者をかくしたり、国民に「この戦争は正しい」と思い込ませてやることすべてを戦争のためにするのが日本政府のたくらみかも。(ST)

(5) 戦争ポスターから戦争中の生活について話し合う

戦争従事者の次に、戦争中の日本での生活の様子について考えた。5枚のポスターを使ったのは少し多かったと反省するが、子どもたちは、自分の興味のあるポスターを選んで考えていく様子が見られた。クラス全体でポスターから読み取ったことを共有することで、戦争中の生活を捉えることができた。ほぼ毎時間ポスターを取り扱っていたことで、読み取りもスムーズにいき、相談しながら進める様子が見られた。子どもの関心として、ポスターに女の人あまり出てこないということがあった。ポスターは授業者が選択しているので、この考えは正確ではないかもしれないが、恣意的に選択したわけではないので疑問としては妥当だと感じる。この時間の振り返りのTGの意見として「今回少し出てきたけれど、戦争中、女性やまだ小さい子どもたちは何をしていたのかも知りたいです。戦争に行かなかった人々は何をさせられていたのか、何をしていたのかも知りたいです。」というものがあつた。その他の振り返りからも、女性の視点から戦争について考えることが必要だと考え、次時に取り上げることとした。

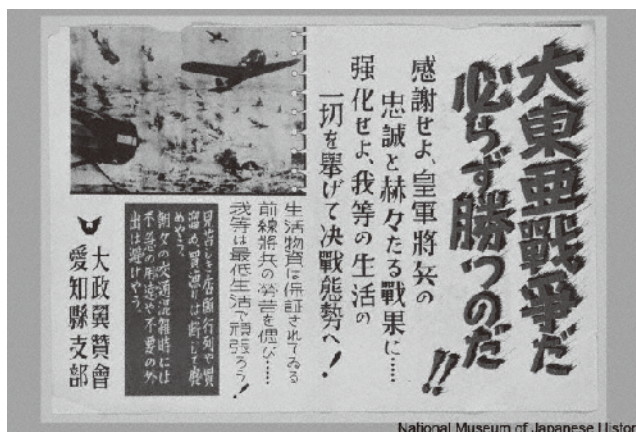


戦争ポスター「少年産業戦士募集」 戦争ポスター「陸軍少年生徒募集」 戦争ポスター「厨芥を生かせ！」





戦争ポスター「節米一割」



戦争ポスター「大東亜戦争だ必ず勝つのだ!!」

○第6時の子どもたちの振り返り

- ・5枚のポスターを見て、国は国民に戦争を賛成、優先させ、苦しい生活を強いていたのではないかと思いました。(ST)
- ・ぼくは、大政翼賛会とは何だろうと思いました。一番前のポスターにもあったので、やはり何か関係しているのかな。そして、国民と戦争だと戦争が大切なのなら、いったい誰のために土地を広げようとしたのでしょうか。(KB)
- ・「戦争中は国民よりも戦争優先」だったのかなと思いました。戦争のために食料を供えていたり、戦争関連のものを作る人を募集したり、「戦争に行っている人たちのことを考えて最低限の生活でがんばろう」みたいなこともかかっていたからです。(YD)
- ・戦争に行かされた人ももちろん大変だけど、日本に残った女性も大変だと思います。あまりお米を食べてはいけないと思うし、若い男の人はほとんど戦争に行くと思うので、力仕事もできなそうなので大変だと思います。(KD)
- ・政府が国民の暮らしを全然考えずに、戦争ばかりを優先していることに、ひどいなと思いました。また、ポスターから「男は国のために戦い、女は家と子どもを守る」みたいなイメージをみんな子どもの頃から植え付けられていたのかなと思いました。(HN)
- ・これまでの見てきたポスターも国民の生活よりも戦争を優先した方がいいとかかかれています。ぼくは戦争に勝って何がしたいのかと思いました。なぜ女性は戦争に行けないのか気になりました。(ST)
- ・今ポスターを見ると、なんでと思うけれど、町中にたくさんのポスターがはってあったら信じるしかないと思います。また、年表に「国民総動員の法律をつくる」とあるけれど、男の人はみんな戦争に、女・子どもは工場での労働や家事で戦争に協力して、国民全員を強制的に戦争にかり出していたのかなと思いました。直接戦争に参加していなくても、みんな間接的になんらかの形で戦争に協力するしかなかった時代なのかなと思いました。(ST)
- ・今回少し出てきたけれど、戦争中、女性やまだ小さい子どもたちは何をしていたのかも知りたいです。戦争に行かなかった人々は何をさせられていたのか、何をしていたのかも知りたいです。(TG)

(6)「今こそ援護も決戦調」のポスターを見たり、千葉市空襲を経験した女性の資料を読んだりして、戦争中の女性について考える。子どもたちの中で、女性に着目している子が増えてきており、戦争中の女性の生活はどのようなものだったのか考えることにした。千葉市(2015)『千葉空襲・戦後70年考えよう 平和の大切さ あなたに伝えたい…「戦争の悲惨さ」、「平和の尊さ」を』の冊子を使って、千葉市空襲の経験談をクラス全体で読み進めた。この女性は授業者の祖母で、当時千葉師範学校女子部の学生で、学徒勤労動員により日立航空機株式会社千葉工場に勤めていた。1945年6月10日の空襲の当日について語っている文章である。この単元は6月10日の空襲から始めた学習であり、授業者の祖母ともつながっているということから、より身近なものとなったと感じる。

○第7時の子どもの振り返り

- ・女性が描かれているポスターを見て、女性はやはり戦争には行かず、兵士の援護をしていることがわかりました。資料を読んで、国民は戦争のせいで大切な人をたくさん失っているのに、どうして戦争を止めようとししないのか、もししているのならどんなことをしているのか知りたくなりました。教科書に、天気予報は国民に知らされないと書いてあり、台風が来ていても来ていることがわからず、逃げ遅れて命を落とした人も大勢いたとあるので、国民は政府をうらんだり、にくんだりすることはなかったのか。それとも、にくむことはあっても、政府に逆らえなかったのか等も知りたいです。今、目の前でこんな出来事が起こったらと思うと、本当に耐えられないと思い、きつと思い出したくもないと思います。(TG)
- ・体験した人の記録を読んで、この戦争の時代に生きていた人は、戦争が特別なものではなく、戦争のポスターや空襲が身近にあり、友達をなくすことも身近にあったのではないかと思いました。また、これだけ国も損をしているのに、なぜ戦争を終わらせようとしなかったのか、疑問に思いました。(SB)
- ・学生である女の子達も働かなくてはいけないことから、大人だけでは足りないくらい、人が不足していたのかと思いました。校医の先生は、Aさんの治りょうを簡単に消毒するだけだったことから、それだけもっと重傷の人がいて、けがをした人々がたくさんいたのだなと思いました。さっきまで残っていた学校が一瞬で消えてしまうのは、信じられないことだと思いました。(HN)

SBの振り返りにあるように、戦争が特別なものではなく、身近にあるものだということを感じることができている。また、近年の世界情勢を考えると、もしかすると授業者の世代よりも戦争を身近なものとして捉えているかもしれないと感じた。この時間の学習では、戦争における女性の役割についてこれまでの時間の学習から自分が考えたことと、資料から読み取ったことから考えることができている。友達が亡くなること、学校の校舎が無くなってしまったことなど、資料のもつインパクトからか、戦争の意味についても考える様子が見られた。



戦争ポスター「今こそ援護も決戦調 (千人針の婦人会)」

(7) 戦争ポスターを中心に学習したことを、考えたことを文章やかるたに表す。

学習のまとめとしてもう一度「国民総決起」のポスターを見て、現在考えることについて文章に表すことにした。また、自分の関心のあることに関してかるたづくりを行った。

○まとめの文章

- ・なぜ、一人一人が武器を持って戦おうとしていたのかがわからなかったけれど、一人一人違うことで支えたり、戦ったりしていることなのじゃないのかなと見方が変わりました。子どもでも国のために戦おうとしているのではないかと思いました。富士山がなぜ描かれているのかなと思っていたけれど、日本の中で一番高いというのは表彰台と同じように高いは強いと同じみたいな感じだなと思い、日本が一番強いのだといっているようなポスターだなと思いました。犬がいるのは「総決起」だから、犬だろうが何だろうが日本にいる生き物はみんな戦えみたいなポスターなのではないかと思いました。ひとつひとつのポスターにいろいろな意味があって、絵の意味もとても深いなと思いました。服や武器などからして、みんな一般人で、偉い人というわけじゃなく、偉いなど関係なくみんな戦っていると思うと昔はすごいなと思いました。(HS)
- ・「国民総決起」のポスターを今見てもこのポスターの決定的な意味はまだわからないのですが、やはり「戦争に行く者も行かない者も、国民全員が戦争をすることに賛成し、みな同じように気を引きしめて、戦いを乗り越えろ」みたいな意味なのかなと思いました。また、前までは広島にアメリカから原爆が落とされたことだけを知っていたので、アメリカが悪かったと思っていたけれど、日本も中国に勝手な爆撃を続けたりしていたので、日本もひどい国だったんだなと思いました。当時の日本には国民の思想を取りしめる「特別高等警察」というのがいたことにととてもおどろきました。また、戦争に反対したら暴力をふるわれたり、逮捕されたりしてしまうことに恐ろしい国だったのだなと思いました。(HN)
- ・私はもう一度このポスターを見て、男女も子どもも関係なく、「戦争に行く、戦う気持ちをもて」というポスターなのかなと思いました。富士山は日本のシンボリックな感じだから、このポスターに描いたのかなと思いました。私は最初、女も男も戦争に行けというポスターなのかなと思っていたけれど、これまで学習してきた中で、男は戦争、女は仕事をやらされていると感じたので、このポスターは男女問わず戦争に貢献しろということなのかなと思いました。これまでの学習で、最初はこう思っていたけれど、みんなで考えるとやっぱりこうなのかなということがよくあって、予想を立て、あとからこういうことだとわかって楽しかったです。ポスターにはいろいろな意味があるのだと改めて思いました。(YG)

3人の文章を紹介したが、共通しているのはポスターから当時のことをよく考え、自分なりの意見を述べていることだ。「全てが戦争に」ということも共通している。他の子どもの文章を見ても、ポスターから自分なりの意見がよく書けている。資料を戦争ポスター中心にして取り組んできたことで、もう一度第2時に見たポスターについて考えたときに、初めにはわからなかったものが見えてくるようになっていく。今回の学習では、なるべく教師からの説明や解説は避け、子どもたちが資料から読み取ったことについて話し合いを通して考えていった。それが最後の文章に生かされていると感じる。

以下に紹介するかるたにも同様のことが言える。かるたは短い言葉で表現することで、個々の興味関心が端的に表れると考えているが、今回紹介したかるたには、戦争ポスターを中心に学習したからこそ出てきた内容がふんだんに表現されている。クラスで様々に意見を交わしながら学習を進めていったことも、自分の興味があることについて表現する際に生かされていると感じる。

かるた左上から

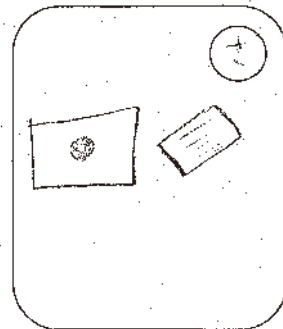
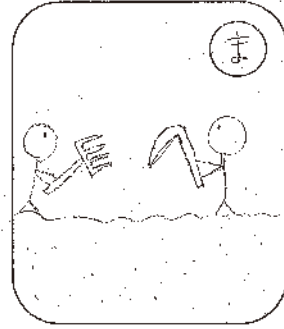
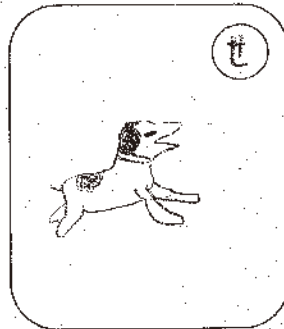
- ・そがの町 戦争つめあと 負の遺産
- ・満州へ 移民政策 はじまった
- ・よびかける 全てをかけろと ポスターで
- ・今日もまた 食料節約 たえきろう
- ・戦争で 犬もおうえん がんばるぞ
- ・さい券を たくさん売ろう 東京府
- ・町中に 戦士募集の ポスターが
- ・工場で 女性子どもは 働いた

そがの町  
戦争つめあと  
負の遺産

世 戦争で  
犬もおうえん  
がんばるぞ

ま 満州へ  
移民政策  
はじまった

さい券を  
たくさん売ろう  
東京府

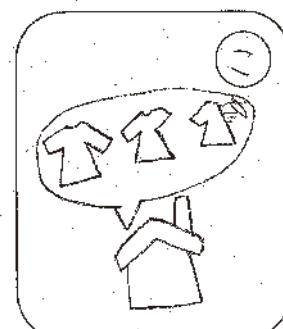
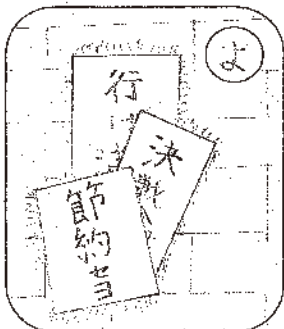


よ 全てをかける  
ポスターで

ま 町中に  
戦士募集の  
ポスターが

き 今日もまた  
食料節約  
たえきろう

こ 工場で  
女性子どもは  
働いた



## 5 成果と課題

### (1) 成果

- ・ 単元を通して戦争ポスターを中心に学習を進めたことで、戦争当時の人々の様子や生活などについて想像したり、クラス全体で意見交換したりすることで全てが戦争に向かっていったことを理解することができた。
- ・ 地域の史料や地域の人、授業者の家族など、子どもにとって近いと考えられる資料・史料を扱ったことで、戦争学習をどこか遠くで起きている出来事ではなく、自分たちの歴史につながるものとして捉えることができた。
- ・ 子どもたちの疑問を軸としていったことで、粘り強く学習を進めることができた。学習を進めていく中で、新たに出てきた疑問について話し合ったり、振り返りで文章として表現したりすることができ、主体的な学びにつながったと感じる。

### (2) 課題

- ・ 前回の実践でも指摘されたことだが、当時の蘇我に関連する戦争ポスターを探すことはできなかった。その分、地域に残る戦争に関する資史料を活用するとともに、授業者の家族の資料を取り上げることで身近さを感じとれるようにしたが、より地域の資史料の掘り起こしが必要だと考える。
- ・ 今回の実践では、授業者が6年生の担任ではなかったため、6年生の1クラスを借りて単元を通して行った。資料の準備や単元の進め方など、学年で多くの人数で取り組んでいくことでよりよい実践になると考える。

#### 〈参考文献〉

- ・ 千葉市空襲を記録する会編（1980）『千葉市空襲の記録』千葉市空襲を記録する会
- ・ 千葉市大空襲とアジア・太平洋戦争の記録 100人の証言編集委員会（2009）『千葉市大空襲とアジア・太平洋戦争の記録 100人の証言—この記録をあなたに繋ぎたい—』千葉市
- ・ 千葉県歴史教育者協議会編集（1996）『学校が兵舎になったとき 千葉から見た戦争一九三一～四五』青木書店
- ・ 千葉市市民局生活文化スポーツ部男女共同参画課（2015）『千葉空襲・戦後70年考えよう 平和の大切さ あなたに伝えたい…「戦争の悲惨さ」、「平和の尊さ」を』千葉市
- ・ 田島奈都子編著（2016）『プロパガンダ・ポスターにみる日本の戦争 135枚が映し出す真実』勉誠出版